

第二節 えらぶ方言の語彙^い

※ 方言にしかない ti・tu はテイ・トウ
du はデイ・ドウとカタカナで書く
di・

一 身体に関することば

(一) 身体語

あードウ……踵^{かかと}
原義……足搔^{あがき}処^との略
ういび……指
うデイ……腕

うトウげ……あー

おとがいの訛

くち……□

くび……首

しばー・しゃー……舌

ちー……乳

ちぶる……頭

ちぶるぶた……頭でつかち

ちみ……爪

ちら……顔

原義……面の訛

われじら……笑顔

ちらかまち……つらかまえ。ふてふてしい顔をさげ

すんでいう意。

テイ……手

テイーなれ……手習いⅡ勉強

テイんぼ……手首から先のない人

テイんがま……手でいたずらすること

にー……胸

ぬデイ……喉

はじ……足

はた……肩

はだ……膚・肌

はな……鼻

はらじ……頭髪

しゃーぎ……白髪

ふあー……歯

ふぎ……陰毛

ふぐい……男陰

ふし……腰

ふす……臍

ふに……骨

まい……尻

また……股

またばし……股間

みー……目

みんくら……盲人・めくらの訛り。

みみ……耳

みみくじら……聾・耳崩れの訛り。

みみんと……聾の意もあるが、いうことを聞かない

者を罵(の)しる時にもつかう。

むむ……もも

わた……腹・腸

しゃーわた……下腹部

わたぶた……腹の大きいこと

わーち……脇

(二) 身体の関係語(病気)

あしぶ……あせも

かさ……瘡(皮膚にできる病気の種類)

きが……怪我

きじ……外傷

くぐち……ひきつけ・癩癩

ぐぶ……瘤

こいまき・くやしき……肥料かぶれ

しゃくいわた……さしこみ

トウいみ……鳥目・夜盲症

にぶトウ……吹出物・腫物

はぎ……禿

はしちや……麻疹

はよがさ……疥癬

ふじち……癩病

ふんそー……天然痘

みーちんけ・みーばちこ……ものもらい

ゆーにだーぐ……淋巴線のはれたところ

(三) 身体の関係語(排泄物)

あー……垢

あーたりむん……あかたれもの意。垢でよこれた

不精者。

いち……息

くす……糞の訛・大便

こーれー……胸やけ

しばい……小便

しーしー……幼児に小便を促す時に用いる語。

はなくす……鼻糞

はなだい……鼻汁

ひー……屁

ふあーぎし……歯ぎしり

みいなたー……涙

みんくす……目糞

ゆだい……涎

(四) 身体の関係語(健康)

あがちゅん……働く。よく働くの意。

あがちゅくわ……働き過ぎ

あんべ……具合。健康状態。鹿児島語の「あんべ」

と同意。

いちやあーよ……どうですか。身体の調子をうかがう時に使う。

くすい……薬

こいゆん……肥える。太る。

しがり……痩せ。痩せている人を指す。

しにゆん……死ぬ

だりたん……疲れた。だれたの意。

ちばり……頑張れ。気張れの意。

ちゅーさん……強い

どーも……もう碌

なしゆん……産む

にぶり……眠れ

にぶいさま……完全に眠りから覚めていない状態。

にぶいはな……寝端はな

さんじち……夢遊

はりゆん……腫れるは

ふデイゆん……大きくなる

まあーりゆん……産まれる。又は農作物の多収穫に

もいう。

むドウしゆん・はちゆん……嘔吐(食べ物を吐くこ

と)。もどすという意。

もうしやん……死んだ。しじやんの敬語。

やみん……いたい。病みんからきた語で病気になる

意あり。

ゆわさん……弱い。又は眠い。

二 天然に関することば

(一) 天体に関することば

ちちゆ・ちつちゆ……月

テイだ……太陽

台湾東海岸アミ族又は高砂族は、日のことを

「チラル」又「チダル」といった。テイだは

この「チダル」の変形か。(新村出博士説)

然し、照りが訛音したものでらう。

テイだがなし……お日様

がなしは敬意を表わす時に使う接尾辞で「加那志」と表記する。

ティん……天・空

ティんとがなし……お天と様

ふし……星

あートウち星……夜明けの星・暁の明星

よーね星……夕方の星・宵の明星

にーぬふあ星……北斗七星

(二) 天然現象に関することば

あーがゆん……明るくなる

あつつあ……暑い・熱い

あみ……雨 「ながあみ」…梅雨

くむ……雲

くむり……曇

くらさ……暗い 「くらがい」は暗い場所を指す。

ちー……霧

のーじー……虹

はじ……風

ふちぬはじ……東風。東風が訛つたもの

いいはじ……西風。西からきている

へーはじ……南風。南風が訛つたもの

にしはじ……北風。古いにし(北を指す)の訛り

うーはじ……大風

はじふち……台風

はみドウる……雷

ひーさ……寒い

ひじゆるさ……冷たい

ひぶし……煙

ふデイひちやい……いなずま

ふみち……むし暑い

へーしー……台風の中心が去った後、反対の方向か

らくる強い風。

みじ……水

(三) 天然物象に関することば

あーみちや……赤土

いよう……洞窟

うしゆ……潮・うしおが訛つたもの

うしゆみじ……海水・単にうしゆともいう

うに……海。とげのあるうにもいう。食用のうに

には特に「はちち」という

くらこう……暗川。石灰岩が溶けてできた洞窟
ごう……穴

さち……先・岬

しな……砂

しま……島・村・郷里

ちゅーじま……他の村又は他の字

たみち……ため池

ちんちよ……井戸。「ほう」ともいう。

はる……畠・農耕地

ほうら……川

やま……山。森林又は荒れた畠をも指す。

三 時や方位に関することば

(一) 時に関することば

1 年

ふトウし……今年

やに……来年

なーみちゅ……再来年

ふず……昨年

みちゆなテイ……一昨年
ちゅトウ……一年

ゆぬや……一年・誕生日を迎えた時等を使う

たトウ……二年

みちゅ……三年

あぬゆ……あの世・来世

ふぬゆ……この世・現世

2 月

ふんちき……今月

たちき……来月

いじやんちき……先月・去った月の意

ちゅちき……一ヶ月

たちき……二ヶ月

3 日

ひゅー……今日

なーちゃ……明日

あさテイ……あさつて・明後日

ゆわ……しあさつて・明々後日

きんにゅ……きのう・昨日

きうつテイ……おととい・一昨日

ふねだ……の間・先日

ふぬぐる……この頃

4 刻とき

なま……今・現在

あートウち……暁・早朝

すトウみテイ……朝

ひんま……昼間

よーね……夕方

あーよーね……夕方まえの刻・明るい夕方の意

ゐる……夜

ゆーなー……真夜中

ゆながトウ……夜通し

ちいひーじゅ……一日中

ゐびる……昨夜

5 四季

はる……春

なち……夏

あき……秋

ふゆ……冬

(二) 方位に関することば

あがり……東・日のあがる方角の意

いー……西・日の入る方角の意

へー……南・南風から来たことば

にし……北・古の方角の意

めえ……前

うしゅ……後

にじ……右

ひじやい……左

うい……上

しやー……下

なー……中

まんな……真中

しみ……隅

うわーら……風上・うわーは上の意

しやーら……風下・しやーは下の意

はたふあら……側

四 住居に関することば

(一) 住居・建築

いしがち……石垣。屋敷の周囲に、高さ五尺位に珊瑚礁の切石を積みあげてつくっていたが、最近ではブロック壁に変わりつつある。
うむテイ……表家(母家)のこと。又その座敷名くら……高倉
直径三十糎以上の円柱(四本・六本・九本の三種類がある)のみを柱とし、鼠害と湿気を防ぐ為床を高くしてある。現在はほとんど姿を消している。
テイし……家の正面(普通は南)
ティんじよ……天井
トウくう……床・寝床
トウくのみ……床の間
トーぐら……台所(下屋)。うむテイに対して呼ぶ。
普通建物が別棟になっていて、簡単な渡り廊下(はたなえ)でむすばれていた。

がんこうこう……牛や馬に曳かせて田や畠を耕す農具。「あいざい」より威力が大きい。
くだ……稲からもみをすぐり落す櫛の歯のような農具。現在は使われていない。
さんしる……蛇皮線。胴に蛇の皮を張った三弦の弦楽器。三味線に比べ柄が短い。
じぬ……膳。漆器で普通表は赤裏は黒であった。
せー……竹を細かく削って編んだ器。ひやーぎに比べ細めに編み穀物等を入れた。
たばくぶん……煙草盆
たれ……たらい
ちるぼ……釣竿
テイる……竹を細かく削って瓢箪形に編んだ器。
魚をとって入れるのに用いた。
なび……鍋
にぶ……柄杓。大きな盃そう竹でつくったり、トタンでつくっていたが、現在はプラスチック製のものがほとんどである。
ぬーみ……のみ・大工道具
のーじ……鋸

はまドウぬめ……炊事場

はや……柱

ひちじよ……家の西側の入口

ひた……桁

まち……豚小屋。「うわがや」ともいう。牧からきた語

むしゆ……筵

ゆくわしや……床下。湿気が多いので、風通しをよ

くする為周りを囲うことがなく明るい。

(二) 家具・什器・農具類

いちじや……銚。魚を突く柄のついた銚。

うし……臼

ひちうし……ひきうす。二個の扁平な石からなる一種の粉ひきを使う器具。

しるし……糯すりうす。もみをすって玄米にする器具。

具。

あじむ……杵。テイあじむとやまトウあじむがある。

かぐ……鳥を飼育する為の籠

からから……銚子。酒を入れて杯につぐ具。沖縄から伝って来た容器で酒を入れる所と注ぐ所が別である。

はがま……釜。ごはんを炊くかま

はさ……傘・笠

ちぐがさ……シユロの繊維でつくった笠で水につよい。

ちびトウがや(むんじやらがさ)……麦の茎でつくった日よけ用笠で軽くて涼しい。

た日よけ用笠でつくった笠

によーさ……蓑・シユロの繊維や藁でつくった雨具

ふばがさ……枇榔の葉でつくった笠

右四つの雨具・日よけ用の笠は、化学製品の普及で現在姿を消しているが秀れた民芸品である。

はたむぬ……布を織る織機

はな……鉋

はな……花

はまた……大きな鍋の蓋。麦わら又はかやで円錐形

に編んだもの。主食が芋食の時に用いていた

が米食になつて姿を消した。

はみ……甕。沖縄から伝って来た容器。水がめ・味噌がめその他塩・豚肉・黒糖焼酎を貯蔵する

等利用が多かった。

はみ……甕。沖縄から伝って来た容器。水がめ・味噌がめその他塩・豚肉・黒糖焼酎を貯蔵する等利用が多かった。

はら……竹を細かく削って編んだ器。隙間がなく粉等を入れるのに使う。ばらの意。

ほうち……箒ほうき。すゝきの穂や藁わらでつくってある。

みやーぼうち……庭箒。竹の枝でつくってある。

まあが……水田の土を細かくする農機具

みしげ……おもどし。飯をもるもの

ゆい……竹を細かく削って編んだふるい。細かいものを選り分けるのに使う。麦ゆい・ふみゆい・ゆいがま等がある。

ゆち……斧おの

ふうゆち……大きな斧

ゆちがま・ゆちぐわ……小さな斧

五 衣類・装身具類に関することば

(一) 衣類に関することば

うちゆくい……ふろしきだいの女のかぶりもの

うび……帯

さなじ……男の褌 「かーむ」……女の褌

したむん……女の腰巻。下のものとの意

じゅばん……襦袢じゅばん

ちばら……着物

あわし……裕の着物

ひつトウい……単の着物

みーちばら……新しい着物

ふるちばら……古い着物

ちゆらちばら……晴着

やりごちばら……破れている着物

うじよ……防寒作業衣

すデイな……女の外出着

ちびちや……男の農作業衣

はうい……羽織

ばしやちばら……芭蕉の繊維で織った着物。

素地のままで使われ、明治頃まではその利用度が木綿より高く、大正時代までは木綿に匹敵する程でした。涼しくて洗濯がきき、サラリとしてべとつかず、高温多湿の島にはあつらえむきの着物であった。

ふあんティン……半天

六 食物・飲料に関することば

(一) 食物

あし……昼食

主食が芋の時代、栄養が少なく日に四食とっていたので、午前二食とり遅い昼食となっていた。

いんじゆみく……炒った小麦を右うすで粉にしたもの。はったい粉より少し粗い。

いんじゆみけ……いんじゆみ粉でつくったお粥かゆ

いんじゆみドゥーし……いんじゆみ粉でつくった雑炊。

くわーし……菓子

はしやぬはむち……芭蕉の葉でつくった餅。

ふちむち……よもぎの入った餅。

ふくりかん……小麦粉に砂糖をとかしふくらし粉を入れて蒸した菓子。

ゆちみし……米粉に黒砂糖を入れて蒸した菓子で、

沖永良部独特のもの。

(二) 装身具類に関することば

あしじゃ……下駄。あしだ（足駄）の訛

うびがに・うびんがに……指輪・指金の意

ぐしやに……杖

さば……草履。昔は藁でつくっていた。

さばち……櫛。さばくの意

トウんぐし……かんざし

はがに……鏡

はなをう……鼻緒

みんかがに……眼鏡

だーぐ……団子。米や麦の粉でつくる。

ちきむぬ……漬物

ドウーし……雑炊

なまし……なます。大根・人参又はきゅうり等を細

かく切つて酢と醤油で味つけしたもの。

なんじち……焦げ

なんじちめ……焦げつきのご飯。

はんめ……食糧。飯米の意。

ひまじち……軽くとる食事。主食が米食になつてか

らなくなつた。昼間食の訛^{しき}だけど、ところに

より朝食前にとる軽い食事を指す。

ふが……卵

ふしかぶ……大根を薄く切つて乾かしたもの。

みしゆ……味噌

むじ……麦。田芋の茎にもいう。

むち……餅

めー……ごはん

うむめー……芋ごはん

おーめー……栗ごはん

むじめー……麦ごはん

田が少なく本土復帰するまでは、米だけのごはんはなかなか食べられなかった。

めーし……朝食

やなぶ……蘇鉄の実。殻を割つて中の実をとりだし

乾かして粉にし食用にしていた。昔「ようしゃ

うい」(飢饉)の時の大事な食糧であった。

やなぶげー……やなぶの粉でつくつたお粥。

やなぶドウーし……やなぶの粉でつくつた雑炊。

やなぶみしゆ……麦のかわりにやなぶの粉を使った

味噌。

やせ・やつせ……大根・又は野菜全般の総称。

大根には特に「でーくに」ともいい、野菜が

訛つて「やせ」「やつせ」となつた。

やせわーし……野菜煮

きーうい……胡瓜きゅうり ひる……んにく

しむトウ……千本なす しぶい……冬瓜とうがん

なんくわ……南瓜かぼちや しょー……夕顔

みんじぬ……人参 やせうい……白瓜

にーぶつか……ふかねぎ びやー……蒞

うわ……豚

あぶらじ……豚肉。脂の多い肉。

さんぶに……肋骨。骨の中でもっとも美味。

ちぶるじし……頭肉。脂が少ない。

ましし……赤肉で美味しく、蛋白質に富む。真肉の

意。

ゐい……晩食

(二) 飲料

さき……酒。普通は焼酎を指し、清酒には特に「や

まトウ酒」という。

しー……酢

しょうゆ……醤油

みしょう……煮た芋や麦(最近ご飯も使う)をつぶ

し、一・二日おいて僅かの生芋をすりおろし、

砂糖を入れて冷やして飲む南国独特の飲みも

の。

七 農事に関することば

あまぐわん……雨乞。雨願の意。

いたば……交互に労力を提供しあつてする仕事。

いにはい……稲刈り

うむうい……芋のつるを植える。芋植のこと。

をうじさし……きび(甘蔗)植え

こい……鋤。堆肥

くるまんど……砂糖小屋で、きびをしぼる機械を

まわす牛の通る広場。

さたや……砂糖小屋。精糖工場が出来るまでは砂

糖小屋で黒砂糖をつくつていた。

しーわき……田畑を借りて耕作し、できた作物を

地主と分ける。小作のこと。

たーうい……田植え

たーむぬ……薪。焼きものの意。

たみち……溜池。用水池。

たんくさ……田草取り

ちようごい……人又は家畜の糞尿。水肥の総称。

のーしゆ……苗代

まーみうちぼ……豆類を打つて実を取りだす棒

むに……籾

むんちやり……取り入れ

ゆがふ……豊年。「世果報」の訛

ゆびた……泥の特に深い田。湿田。
わーく……作物を植えつけてある田畑から雑草をと
ること。

八 神仏と幽霊変化に関することば

(一) 神仏(信仰の対象)に関することば

テイら……寺。語義は寺であるが、お宮や祠ほこひにも
寺という呼称が残っている。神仏混交の習俗
が明治になって神仏分離の法令が出ても、信
仰に関する問題だけに簡単に改めることが出
来なかった。

うあーまがなし……竈かまどの神さま。先祖の神と穀物
の神とを兼ねたような性格の神として、古い
時代はよく尊崇されていたようだ。朝の初茶
は先ずこの「うあーまがなし」にお供えし(か
まどに茶を注ぐ)、次に神棚にあげてから後、
家人は初茶をいただいていた。

ふトウき……仏ほとけ。島には仏教的地盤は薄い。現在
寺院の建立されているものはないが、「ふトウ

しんす……神棚。先祖の訛
トウーみ……灯明

トウしぬゐる……年の夜が直訳だが大晦日おそひの晩のこ
と。

はんだに……厳しい禁忌で、青物を行事中は家の中
に持ち込んでならぬとか、不浄の者は外へ
出て浜とか木の下で一日中過ぎねばならぬ。

帰りは海の水で身を清める等の行事。

みーやぐわん……新築の家の厄払いをする行事。

「新家願」の意

(二) 物忌み・呪術・葬儀に関することば

うびおいしゅん……改葬のこと。埋葬した屍三年経
てから掘り出し、水又は海水で骨を洗い清め
ること。「うび」とは水の意。

うみちじぬ……葬儀の時、水と御神酒おみきと洗米あらいぎをのせ
る膳。

おおぎ……棺桶をのせて運ぶ台。

がんばく……棺桶。屍を入れる箱。

ぐしろう……冥土めいど。あの世。「後世」の意。

くちいり……呪い。忌み神。呪術で人をのろうこと。

き」の語は残っている。

(二) 幽霊変化の類

がわる……河童かまど
ちゅーだま……人魂ひとたま
ひーぬむん……木の精。化け物・怪の物にもいう。
まーぶい……霊・幽霊
ぬんぎむん……おそろしいもの。

九 祭祀・祝いごと・物忌み・まじな

い・葬儀等に関することば

(一) 祭祀・祝いごとに関することば

いへー……位牌いはい・墓碑

うがみん……拝む。見せてもらうという敬語の意も
ある。

うみり……海入りが原語。旧十月十五日の夜、たちよ
しやを持つていつて浜で食べたり酒もりをし
て豊年を祝う行事。

しゅちま……収穫期に行う行事で、新米を祖先に供
える。

さし……棺桶を担う丸太の棒。

しまみしどう……しまは郷里、みしは見せ、どうは
場所を指す。葬列が墓地に入る前に行う祭儀
の場所。棺をかついで左に三回廻る。お別れ
最後の見おさめでもあるし、ぐるぐる廻すこ
とによつて死者に方角をわからなくして縁切
りをする意味も持っている。

しょうばんじぬ……死者と近親者の最後の会食をす
る膳。「相伴膳」の意。

トウぶれ……死者のあつた家を訪ねてくやみを述べ
ること。「弔い」の意。

はかめ……お墓参り。「め」は参りの意。
まちドウみ……最後の供養の義。三十二年忌のこと。

「祭り止め」の意。

むドウんとー……肉体を離れてさまよい出ようとす
る霊を声をあげて呼びもどすこと。死とは霊
肉の分離だという素朴な死生観から臨終の人
が息を引きとった時、大声でその人の名を呼
ぶ行事。「戻って来いよ」という意。

めーじく……葬儀の時祭壇の前に置く小机で、花を

一本活けお菓子を供える。「前机」の意。
やーじよ……棺にかぶせるさや堂。大工が霊柩車の
ような形のを小さくしてつくった。

(三) 年忌等の数え方

ゆぬやぬまちり……一年忌
みちゆぬまちり……三年忌
ななトウぬまちり……七年忌
十三年忌以降は標準語と同じく十三年忌・十七年
忌・二十五年忌・三十三年忌という。
ちゆなんか……ひと七日（七日）
たなんか……ふた七日（二四日）
みなんか……み七日（二二日）
ゆなんか……よ七日（二八日）
いちなんか……ご七日（三五目）
むなんか……ろく七日（四二日）
しじゅうくにち……（四九日）
ひやくくにち……（百日）

十 民間習俗に関することば

あーちばら……刑務所入りした処刑者。かつて入獄
者は赤い服を着せられていたからこの名があ
る。

あさい……汐干狩。漁（あさり）と同意の語。
いいじやに……どもり
いざい……いざり。松明（たいまつ）又はカーバイ
トランプ等を用いてする夜の漁。

としび……正月の一日から十二日までの干支のお祝い。
うったち……生まれた子がはじめて父又は母の家に
行くこと。初出の意。

うば……糸満の漁師たちが乗る速度の速い板付舟。
うむかぎ……面影
うやぎんぞう……結婚式三日目に夫婦同伴で妻の実
家へ礼に行くこと。里帰り。

おいしり……お召し上り下さい
かき……賭
かきほい……掛買い

だりやみ……晩酌。疲れることをダリユンという。

このだり止みの意。報いられること少なく精
根をからす百姓衆にとつて「だりやみ」こそ
は唯一の慰安でもあり、明日の勤労の活力培
養源であった。

ちむい……限り。寿命。
トウくむち……床餅。鏡餅のこと。
トウしぬえー……年の祝。生れ干支が来た年（数え
の六十一歳・七十三歳・八十五歳）には各自
の家で年の祝を盛大に行なつた。

なぐさみ……慰みの意。楽しみ又は行楽日の意味に
使う時もある。
なれ……慣れ。習慣習俗。礼儀作法。
なんこ……宴会の席での遊びの一種。

箸を三つ折りにし二人が三本ずつ持ってい
る。片手を出し合つて掌の中に何本か隠し
持っている数をあて合う遊び。敗けた時は罰
杯を飲む。ただそれだけの簡単なルールだが、
間髪を入れぬカンの鋭さと判断が必要。この
遊びは、薩摩渡来のもので下級武士たちの中

ぐり……お辞儀

くわつち……馳走をいただくこと

さかなや……料亭。昭和初期までの料亭には、沖縄
から美しい人（ズリウナグ）がきて、独得の
髪を結い銀のかんざしを挿し、紺紵に前帯姿
で異彩を放っていた。沖縄踊りを上手に踊り
サービスよく、若い遊び人達を楽しませたも
のである。

しー、しー……幼児に小便をさせる時よく使うこと
ば（幼児語）。

しまうた……島謡。島民の民謡
旋律が独得で、哀調を帯びたものが多い。楽
器はサンシル（蛇皮線）時には大鼓を添える
ことがある。

しきん……世間・地域社会。

じょうしち……食事の賄い。自分の家でお祝い祭り
をする時、多くの客人のもてなしにかなりの
じょうしちを頼んでいる。給仕をすることも
ある。古語の雑色の意か。
ずみ……ランプの燈心。

ではやったが、本土では現在すたれている。
ぬさり……運命。人には各々天から与えられた「ぬ
さり」というものがあると、一種の素朴な諦
観をもっていた。

ぬすドウ……盗人。ぬすびとの意。
はんざし……お祝いやお祭りで客人が多い時、庭に
張り出してつくった簡単な座敷。
ひじやいうちよし……着物の前をあわせる時、左を
下に右を上にあわせて着ること。今の着方と
は逆に昔はひだりまえだった。奄美では「ひ
じやいうちよし」は亡者の着方として忌み
嫌っている。

ひじやいじな……左ぬい縄。葬式用の縄等に用い
る。
ひだわしぐわ……にざの子。雇われ人の子。
ふうちゆ……大人
ふー……幸運
ふーぬ、あたさや……運がよかったね。
ふーいゆー……大きい魚
へーしまちばら……へーシマはうらがえし、チバラ

は着物。着物を裏返して着ること。「へーし
まちばら」で寝るとよく夢をみるといわれて
いる。

まじむん……妖怪。化け物。
まーりえ……出産祝
みーぐみめ……新米のご飯
むえ……模合。頼母子。
むなみた……嘘。「むぬひんじ」又は「なーみた」
ともいう。
むぬぬばち……物の罰。何かのたたり。
むぬわれ……物笑い
しきんぬむぬわれ……世間の物笑い。
やまトウちゆ……本土の人。大和の人の義。今尚本
土の人を総括してこの語で呼んでいる。
やまトウトウじ……本土出身の妻
やまトウむすび……荷造りの時の結び方
やぐまゆん……家ごもりの義。病気で家に閉じこも
ること。
やつけ……厄介。お世話。
やつちゆ……やいと。灸

やなくち……悪口。声の荒らいことにもいう。
ゆあかし……夜明かし。一晚中起きていること。
ゆー……世の中

ゆた……霊媒者。人の依頼に応じて呪文を唱え、悪
霊を払い、病根を絶つことを職業にしていた
が、今は死者や祖先の霊と語って霊媒を行い、
祖先の意見を現世に伝えたり厄払いを行った
りする。唱える呪文は一定の型はなくその場
に応じて熱狂的に口走るのが特徴である。「ゆ
た」の語源は「ゆんた」。

ゆえ……寄り合い。集会。一般字民の集会。
わらび……童の義
わらんちや……子供達

十一 人間関係に関することば

(一) 一般的な呼び名

あぐ……友達
あーぐわ……赤ん坊。赤児の義。
あじ……祖母

あちや……父。「チャン」ともいう。
あま……母
あや……姉。「ネンネ」ともいう。
うトウ……弟。年下。
うトウじや……兄弟
うや……親
うやほ……先祖
くわー……子
くわーまが……子孫
しざ……年上。年長。
しんけー……気がいい。狂人。
ちゆー……人・人間。アイヌ語の「エンチュ」台湾
阿里山中の高砂族が使う「ツォー」に関係な
きか。(新村博士説)
ちゆーじまちゆー……よその人。他郷の人。
ちゆらちゆー・ちゆらむん……美人
ドウし……同輩・友達
トウじ……妻
トウじぎトウ……夫婦
にいせ……男子青年・若者。語源は新背(にいせ)

又は鹿児島の子才から来たことばか。

にんぎん……人間
にんぐる……恋人。妾。怒ねどろの意。
ばーば……叔母
はちきり……出しやばり
はろじ……親類

トウめはろじ……血縁関係はないが親戚つきあいを
している友人。

ふあちや……伯父
ふあーま……伯母

ふりむん……気がいい。狂人。頭の悪い人への蔑称
としても使う。

みー……兄。年上に対する敬称としても使う。
めーらび……未婚の若い女。女子青年。古語「女童」

の訛音か。万葉の「うめらべ」(女達)から
きた言葉か。

やくさみ……未亡人。一人暮らしの女。
やトウい……雇人。奉公人。

やあぬちゆ……家人。家族。
ゆみ……嫁

る。

ちむきりむん……思いきりのよい者。肝(心)切り
者という意。短気者にもいう。

ちむじゆらさ……氣立てがやさしい。肝(心)がき
れいという意。

ちむながむん……気の長い者。のんき者。
ドウくさ……元氣

とうぬちゆ……頭の悪い者
とほくりちゆ・とーぶりちゆ……ぼんやりした者。

遅鈍な人。「途方にくれた人」の意。
なちさ……泣き虫

ねーじゃ……跛ひこをひくこと
はなしやぬくわ……可愛い児。愛かほい児の義

まいうぶさ……尻が重いという意から、動作の鈍い
人を指す。又他人のいうことに直ぐ動かない
人も指す。

まきしかじむん……負け嫌いの人。強情者。
みしや……店屋

みんくら……盲めくら。仕事のやり口の悪い人へ
の冷笑にも使う。

わらび……子ども。童わんの訛音。

みー……女から男兄弟を指している呼び名。
しぎみー……兄

うトウゐー……弟
をうじまうば……おじさんおばさん

をうじや……叔父
をうーばい……おてんば

をうない……男から女姉妹を指している呼び名。
をうなぐ……女

(二) 人間の型(タイプ)・職・表現

あーたりむん……垢あかだらけの者。不潔な不精者。
いちぶいむん……怠者

うあーない……嫉妬しつと。うらやむこと。
うどにむん……横着者。太々しい者。

くわーむい……子守
さかなやうなぐ……料理屋の酌婦。女郎(売春婦)。

さきくれむん……大酒飲み者。酒くらい者の義。
しゆーた……官公職についている人への敬称。

たまししじら……俐巧り者。利発なという意の外に、
功利的に頭のはたらく者を指している時もある。

みしテイむん……義理を十分にはたさない人。
むにぐトウゆみや……おしやべりの人。冗談家。

十二 感情感覚に関することば

(一) 感覚的なことば(主として形容詞)

1 味覚

あまさ……うす味。砂糖の甘味。

あまびれ……ひどいうす味。

しーさ……すっぱい。酢の味。

にじやさ……苦い。まずい。「にちゃん」ともいう。
はらさ……辛い。しょうが・わさびの辛さと区別す
る為塩気の辛さを「しっぱらさ」と言う。

まさん……美味。味が良い。

2 触覚

しびりゆん……しびれる。

なぶるさ……滑らか。すべっこい。

はちこさ……皮膚に小さなとげがちくちくさすよう
な気持ち悪い感覚。

はよさ……痒かゆい。

はなはちちゅん……強く鼻を刺激すること。十分に

漬けきつていない漬物などを食べて、くしや
みを誘発しそうな時などに用いる。

ふぁーさ……硬い。

やふぁらさ……軟かい。

やみん……痛い。病気になる時も使う「病みん」。

ゆーさ……えぐい。

3 視覚

あーがい……灯。あかり。明るい所。

あーがたん……明るくなった。

ゆーぬえーたん……夜が明けた。

くらがい……暗い所。

くらすさ……暗い。

くらしみ……暗い所。くらがりより狭い場所を指す。

暗い隅の意。

みー……見よ

みやーたん……見えた。

みやーゆえ……見えるか。

みーひちやろさ……眩しい。

4 嗅覚

くささ……臭い。

はざあ……におい。この場合「〇〇はざあ」と、は

ざあの上に、におう物を冠して幾らでも語が
構成されていく。

なんじちはざあ……焦げのにおい。

あぶらはざあ……あぶらのにおい。

はばしや……香ばしい。

(二) 感情を表わすことば

1 喜怒哀楽の感情

あたらしや……惜しい。勿体ない。

あたらむん……あたらしやと同義。

あわり……哀れ。貧しい。

うテイちき……落ちつけ。

しんさ……くやしい。残念。

たまがゆん……怖がる。たまげる。

たんげゆん……頼みにする。当てにする。

ちむいじゆん……腹がたつ。

ちむうドウるち……肝にこたえる驚き。ショック。

ちむやみ……後悔。肝(心)が病むの意。

トウディなさ……うす気味悪い。ぞっとするような

怖さ。

にじよさ……可哀相。かわいそう

にたさ……憎い。

ぬーさ・ぬんぎさ……恐ろしい。怖い。

はごさ……対人的な嫌い。

はなしや……対人的な好き。愛の意。

ほーらしや……嬉しい

みーうドウるち……目を見張るような驚き。目驚き

の意。

みーたまがい……見てたまげること。

むぬぬばち……物の罰。何かのたたり。

わしみき……怒れ

わたくろさ……腹黒い。欲深い。

わーしや……おかしい。恥かしい。

2 身体的な気分

あがー……痛い。やみん(病)にくらべ感嘆語。

あぐましや……疲れた。

あんべ……身体の具合。「按配」あんぱいの意。

あんべわろさ……身体の具合が悪い。

くちさ・くちよさ……苦しい。きゆうくつ。

あつつあ……暑い。熱い。

ひーさ……寒い。

ぬくさ……暖かい。ぬくい。

しださ……涼しい。

ひじゆるさ……冷たい。

しやーひる……痺れて感覚がなくなる。

ひるくみ……痺れる。しび

だろさ……だるい。

ゆぬぶい……居眠り。

よーしや……ひもじい。